



きんたろう倶楽部通信

9号

2010年9月30日発行
きんたろう倶楽部事務局
〒930-0151 富山市古沢254番地
富山市ファミリーパーク内
TEL&FAX: 076-434-1316
URL: http://kintaroclub.net
E-mail: info@kintaroclub.net

2006年4月23日
きんたろう倶楽部結成
2010年4月の会員数:792名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。
それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

◆ キラズ山に登る ◆

富山と岐阜の県境にあり、名前が示す通り「切らずの山」として原生林のまま残すのが理想だったキラズ山。現在はブナを伐採し、スギの植林地へと変貌し、そんな人工林も切り捨て間伐でしかなく、流木の一因となるのが現状です。しかし標高1187mの頂上付近一帯には残された原生林もあり、里山再生を目指す市民ボランティア団体独自の目線で現状をつぶさに視察しようと立案。ここまでは簡単！目指す原生林の森まで私には苦難の連続の道程でした。

樹肌に印されたクマの爪痕を横目に藪をこぎ、ロープを使って坂を登り、励まされながら頂上にたどり着いた時、迎えてくれたのは目にも鮮やかな黄緑色の枝葉を広げたブナの大木でした。



この仕事に携わり、まだ3カ月の私ですが「こんな山がいいなあ」と陶醉し、今来た道を再び帰る事を忘れていた一瞬でした。

◆ 念願だった夢創塾 ◆

雨が降り出しそんな空を見上げながらバスに乗り、自然体験リーダー養成を目的に念願だった夢創塾へ出発！
夢創塾代表の長崎さんから活動状況・森にかける思い・主な自然体験メニューの説明をして頂き、きんたろう倶楽部も野外活動スタート！
その頃には、お日様もときどき顔をのぞかせてくれる活動日和となっていました。



早速お昼の食事の準備。ピザ・古代米のおにぎり・みそ汁など全部自分達で作りました。普段とは異なる活動でしたが、皆さん嬉々として手際よく行動され、自分のできる作業をこなしていました。味はもちろんパーフェクト！
午後からの竹筆づくりや竹炭を使ったクラフトでは、隠れた才能を発揮して短時間で作品を仕上げた神業！さすがはきんたろう倶楽部。心が解放された楽しい一日となりました。

◆ 日々の活動とこれから ◆

きんたろう倶楽部が手掛ける里山の殆どは、長年放置されうっそうとして光が入らず、真つ暗でどこから手をつけてよいのか分らない程の竹林が広がっています。そんな一画はほんの数時間、人の手が入る事でみるみるうちに開けてくる。一人の力では不可能と思われることも、何人もの力が加わることで大きな仕事を成し得る瞬間。作業は暑い日・寒い日・雨の日など様々で決して楽な事ばかりではありませんが「この作業に参加できてよかった」という充実感で、いつもいっぱいになります。



また皆さんの活動に前向きな姿にも感動！
里山から季節の食材をおすそ分け。
野草や昆虫を見つけては、必ずむ会話。
休憩時に心地よい風に吹かれな

から「こんな山にしたい」などと将来の里山に想いをはせる。
そんな時、みんなの顔が輝いてみえます。しみながら活動をする姿勢こそがきんたろう倶楽部の真髓ではないでしょうか。
また事務局ボランティアも重要な戦力で、会員向けに800通を超える活動案内の発送作業を、手を止めることなくサクサクとこなしていきます。



同様に、調理ボランティアもなくてはならない存在です。長年の主婦・シェフ(?)とにたく調理に関して「ペテラン」の面々で作る大鍋のみそ汁は、いつも会員に大好評！

一番のヒケツは、「おつかれさま・ありがとう」の愛情と感謝のスパイス。このようにきんたろう倶楽部は、多方面からのサポートにより支えられ、皆さんの優しい声かけと、アドバイスの一言一言に元気をいただいています。

きんたろう倶楽部事務局
是松 好美

社会貢献の森による森林整備協定

(風とせせらぎの森林)

富山森林管理署

8月4日(水) きんたろう倶楽部は、事務局を構える富山市ファミリーパーク内のホールにおいて、富山森林管理署と「社会貢献の森」

きんたろう倶楽部による里山再生の象徴の一つとしていきたいと思っておりますので、これからもご協力をお願いします。



による森林整備協定の調印式を行いました。今回の調印に至った森林は、富山市稲代にある大沢野国有林で、強風から家屋や田畑を守るため、東西に約1500m、幅平均20mの2・86ヘクタールの防風保安林です。スギ造林地に侵入してきたモウソウチクを、平成19年度から、きんたろう倶楽部が森林管理署と協働で、タケの除去とタケをチップにしての歩道整備を行ってきました。この里山の再生を計画的に実施することについて森林管理署から打診があり、最後まで里山再生をやりとげたいとの思いから今回の協定締結になりました。協定により当地は「風とせせらぎの森林(もり)」と命名され、今後はタケの除去の外に、空闲地への植樹・保育や看板の設置等を行っていきたくと考えています。



木漏れ日の差す里山へ

社会福祉法人 めひの野園

環境緑化花いっぱい委員会

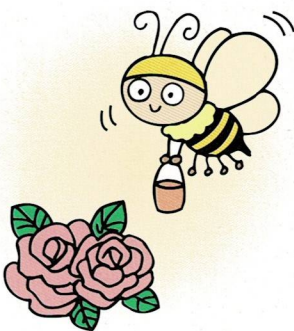
高野 誠一

5月16日(日)、当園裏の環境整備として、きんたろう倶楽部とめひの野園で竹林整備を行いました。また北陸電力研修所でも同時に行いました。

これまででは当園の利用者さんと職員が協力して、作業の合間を利用し、枯れ竹の除去や間引き作業を行って参りました。しかし限られた人海戦術では、なかなか理想のモデル竹林にはなりませんでしたが、きんたろう倶楽部のメンバーの方々が、竹林整備に参加してくださるようになってから、以前には鬱蒼として木漏れ日さえ入らなかつた立ち枯れた場所が、光の差す竹林に変わり、とても充実した気分になりました。



作業の後には、筍と椎茸の味噌汁を頂き、旬の食材も堪能しました。呉羽丘陵の筍はあくが無く甘みがあると評判です。今の竹林状況を維持しつつ、里山再生整備地区として恥じないよう、当園としても竹林整備を行い、今後もき



平成22年度 通常総会と講演会

5月21日(金)富山市ファミリーパーク内自然体験センターにおいて通常総会が行われ、来賓の森市長の挨拶と西頭会長の挨拶で開会しました。平成21年度事業報告および収支決算・財産目録・貸借対照表について審議され可決承認。また平成22年度事業計画・収支予算についても可決承認されました。来期のきんたろう倶楽部のNPO化についても審議・可決され、また役員改選では新たに地域づくり作業部会の委員にNPOバンブーセーブアース代表の渋谷秀樹氏の任命も承認され、今後は竹林整備などをとおして協働で活動する事が決定しました。総会終了後は富山県立大学工学部教授の九里徳泰氏による「森と冒険」と題した講演も行われました。



婦中ふれあい自然公園の竹林整備

新町自治会総代

山崎 友道

婦中町新町（あらまち）は、呉羽丘陵の西に位置する典型的な中山間地農村です。古洞池に隣接する婦中ふれあい自然公園は、コナラなどの広葉樹の森に大小4つのため池が点在し、散策コースには王塚・勅使塚古墳などの史跡もあつて、潤いと癒しの場となっております。さんたろう倶楽部さんと集落の協働で行う竹林整備も20年度から始めて今回で3回目となります。7月三連休の初日、ふちゅう曲水の宴でご存知の各願寺境内に約30人が集合し、開会式、そして始業前のラジオ体操の後、寺の裏

山の竹林の除伐にかりました。きつい斜面での伐採も回を重ねた慣れと、リーダーさんの的確な指示で順調に進み、チップパーもフル稼働です。休憩時に気づいたので、前回までの整備で明るくなった林床に、新芽がてんぶら食材のコシアブラの幼木があちこちに見られ、花が終わったササユリも多くなったように感じました。別働隊が各願寺六角堂横にコンパネで2m角の柵を作り、ここに粉砕チップの一部をいただいて積みました。カブトムシのアパートです。その時には、子供たちを呼んで楽

しんでもらうつもりです。今回は、炎天下での2日間にわたる作業で、参加者の皆さん汗だくの奮闘でしたが、きれいに整理された林を見ると本当に晴々しい気分になります。何とかしなければと思っても、里山森林の整備は集落の力だけでは限界があります。さんたろう倶楽部の皆さんの千人力の力添えに感謝します。いつの日か、京都嵐山の風情ある竹林のようにして、恩返しをしたいと、そのように思っております。



富山総合支援学校 竹林整備

7月3日（土）富山市金屋にある富山総合支援学校において金屋地区町内会の協働によるグラウンド横にある竹林整備を行いました。



地域に開かれた学校づくりの一環とした行事を考えておられたため、さんたろう倶楽部でもお手伝い出来ることがあるのではないかと提案して実現しました。現場はモウソウチクが繁茂した斜

面であるため竹伐りは大変な作業でしたが、大勢の方の協力ですいぶんキレイになりました。この日、伐った竹はその場でチップパー機により粉砕し、秋に行うクラフトやポット苗づくりに向けて竹たい肥化する事にしました。

この他にも参加した方が持ち帰って使用したいという事で、子どもたちによって袋詰め作業も行いました。

また体育館では「七夕祭り」も行われ、小学部から高等部までの児童生徒や家族の皆さんによる手作りの飾り付けを楽しんでおられました。



森がないと、
ぼくたち困ります。



私たちは
森づくりを応援します。

自分のモノサシをつくろう。

北日本新聞

地球環境貢献活動を応援する

三井物産環境基金



デジタル印刷&マルチメディア

とうざわ印刷工業(株)

本社 〒930-0008 富山市神通本町1丁目8-13 TEL (076) 432-3267(代)

悠久の森2010 「森と語るう」 巨大流しそうめん体験

昔から伝わる技術や資源の見直しとともに、地域活性化につなげようという運動は今年で4年目となりました。きんたろう倶楽部でもこの運動に携わり、毎年竹で作った樋や器を用いた流しそうめん体験を実施しています。

8月28日(土) 今年から地域づくり運営委員となったNPO法人バンブー・セーブ・ジ・アース(渋谷秀樹 代表)と協働による活動を行うことになり、皆さん揃って設営の準備に取りかかりました。



出来上がった流しそうめんの土台となる竹の樋の長さは40m!に

もなり迫力満点です。

それから200食分提供する予定なので会員の皆さんには竹の器や箸も暑い中作って頂きました。

8月29日(日)は朝から準備も大変でしたが、皆さんの努力のおかげで無事開始する事が出来ました。今年「食育研究会 いただきます!」の皆さんが流しそうめんを体験したいと申し込みをいただき順調な活動ができました。

大きなトラブルもなく無事終了できましたが今年の異常な猛暑は想定外だったため2張りのテントでは会場全体をカバーしきれず本来ならばもっと広々とした空間で楽しんでいただく予定でしたがご迷惑をおかけしました。



きんたろうの森づくり

呉羽丘陵で昨年秋に開所式を終え整備活動を始めたきんたろうの森づくり活動は、毎回多くの参加者によって日ごとキレイな里山へ変わろうとしています。里山整備は単に竹や木を伐るというだけではなく、その後の有効活用はもちろん、生物の多様性など考えていかななくてはなりません。そこで今年は散策路を整備して雑木を刈り取り階段づくりを始め、また簡易ではありますが雨宿り程度の休憩できる小屋作りにも挑戦しました。

それから実際の活用法として、ノルディックウォークなども行い竹林整備と併せて参加した方いろいろな楽しみ方を体験して頂きました。これからも持続可能な活動を展開する予定です。



事務局だより

身近なところから、環境問題や資源の有効活用などに取り組んでいるオンラインジマート(木村宏代表取締役社長)は、2006年度からアルビスチエーンレジ袋減量キャンペーンの一環として集まったレジ袋の代金を県内の複数のボランティア団体に対し寄付をされ、きんたろう倶楽部にも里山再生活動に役立て欲しいと4万円を戴きました。また新富山市誕生5周年を記念したチャリティーゴルフ「きんたろう杯争奪大会」の参加者から寄せられた12万1100円と北日本新聞社からの寄付金合わせて15万円を里山再生に役立ててほしいと寄付を頂きました。活動に際し有効に活用させて頂きます。

編集後記

これから先のきんたろう倶楽部では、NPO取得など課題をかかえ、活動の岐路に立たされます。目標が大きくなるほど、より一層の大きな力が必要になってきます。そのためには呉羽丘陵を拠点として活動する他団体との連携も必要となってくるでしょう。

どのような形をとるにせよきんたろう倶楽部として、人と自然が共生し、人が元気にいきづく里山づくりをしたいと思えます。皆さんの呉羽丘陵にかける情熱・きんたろう倶楽部の真髄があれば必ず進むべき道を目指せるはずです。事務局としても、皆さんの想いを形につなげていかなければと心に刻んでいます。

